

【評価実施概要】

事業所番号	0172901688		
法人名	有限会社 旭川高齢者グループホーム		
事業所名	グループホーム ほーぷ旭川		
所在地	旭川市永山6条1丁目1-27 (電話) 0166-49-5188		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年7月13日	評価確定日	平成21年7月24日

【情報提供票より】(21年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤7人, 非常勤4人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	18,000~23,250 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	13 名	男性	6 名	女性	7 名	
要介護1	4 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	80.3 歳	最低	59 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とびさわ呼吸器科・内科医院、腎友会泌尿器科・内科(人工透析)
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

スーパーや小学校が近く、買い物の利便性に優れた、閑静な住宅地に立地したグループホームである。高齢者専用住宅を改修した建物で、ホーム内は全体的に木目調で、落ち着いた家庭的な雰囲気を持っている。居室が広く、洗面・トイレが各居室にあり、馴染みの家具や思い出の品々を持ち込むことができる。法人内のグループホームなどと連携し、地域の利用者を支援している。かかりつけ医の受診の支援に力を入れており、人工透析の通院を含め、通院支援は事業所対応としている。町内会に加入し、地域行事や地域活動へ参加して、地域との関わりを深めている。近隣の住民が家庭菜園の野菜を届けてくれるなど、日常的な交流も行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ、地域行事や地域活動への参加など地域との関わり、災害時の地域への協力要請などについて、取組みを行ってきた。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価を踏まえ、評価の意義と理解と活用、利用者本位の生活の支援など、取組みを考えている。自己評価は、話し合う時間を設けることができなかったので、管理者・計画作成担当者の判断で評価を行った。今後、スタッフ全員での取組みが期待されます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、利用者家族、地域の代表者などが出席し、2~3ヶ月毎に開催している。利用者の状況、サービス利用状況、外部評価の結果などについて報告し、災害時の地域の協体制確立に向けた検討など、意見交換を行っている。市の介護保険担当者、生活保護のケースワーカーと情報交換を行っている。地区の包括支援センター主催の連絡会への参加をし、事業者間の情報交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に、普段の暮らしぶりや健康状態を報告している。面会の少ない家族には、毎月電話で報告している。契約書で内部の相談窓口の他、外部への相談も可能としているが、重要事項説明書に外部の相談機関の案内がない。施設内に外部の相談機関の案内は掲示されているが、苦情対応方法については掲示がされていない。意見箱は設置されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の「夏祭り」や「敬老会」などの行事に参加している。町内の地域活動は、スタッフのみの参加にとどまっている。小学校の通学路で登下校の小学生と挨拶を交わしている。近所の方が、家庭菜園の野菜を持ち寄ってくれている。

## 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者ニーズの充足、尊厳の保持など、事業所としての理念を掲げているが、地域密着型サービスとしての理念と合致してはいない。		地域と関わりを意識した施設運営をされているが、地域密着型サービスとして「地域の中で、その人らしく生活することを支えるケア」を、理念の中を含め検討していくことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアに対する意識や目標のずれが生じないように、日々の申し送りの中で、理念またはスタッフ共通の目標について、話し合いをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の「夏祭り」や「敬老会」などの行事に参加している。町内の地域活動は、スタッフのみの参加にとどまっている。小学校の通学路で登下校の小学生と挨拶を交わしている。近所の方が、家庭菜園の野菜を持ち寄ってくれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、地域との関わり、災害対策など、取り組みを行ってきた。今回の自己評価を踏まえ、評価の意義と理解と活用、利用者本位の生活の支援など、取り組みを考えている。自己評価は、話し合う時間を設けることができなかったため、管理者・計画作成担当者の判断で評価を行った。外部評価結果については、運営推進会議で報告され、施設内でも閲覧できる状態になっている。		サービスの自己評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて再確認を行い、項目の一つ一つの意味を理解し、検討することで、より事業所の質の向上が期待されます。スタッフ全員での取り組みが求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、利用者家族、地域の代表者などが出席し、2～3ヶ月毎に開催している。利用者の状況、サービス利用状況、外部評価の結果などについて報告し、災害時の地域の協力体制確立に向けた検討など、意見交換をしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険担当者、生活保護のケースワーカーと情報交換を行っている。地区の包括支援センター主催の連絡会への参加をし、事業者間の情報交換を行っている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時に、普段の暮らしぶりや健康状態を報告している。面会の少ない家族には、毎月電話で報告している。病状の変化があるときは、その都度連絡している。毎月の請求時に合わせて、預かり金の支出状況を報告している。</p>		<p>日々の暮らしぶりの伝え方を検討すると、さらに良くなると思った。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書で内部の相談窓口の他、外部への相談も可能としているが、重要事項説明書に外部の相談機関の案内がない。施設内に外部の相談機関の案内は掲示されているが、苦情対応方法については掲示がされていない。意見箱は設置されている。</p>		<p>重要事項説明書に外部の相談機関を明記し、苦情受け付け体制を明示することで、苦情や意見に対し、前向きに受け止め、活かしていくという事業所の姿勢を示すことができると思う。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ず異動等が生じた時は、利用者や家族への説明は口頭で行っている。スタッフは、文書または口頭で十分引き継ぎを行い、利用者の接し方に気を配るなど、不安を与えないよう努めている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	採用時に、グループホームを理解してもらえるように詳しく説明をしている。不定期ではあるが、法人内の合同研修で、緊急時対応、事故防止対策、個人情報保護などの研修を行っている。		外部研修については、研修の案内を行い、自主参加としている。法人の考えもあるが、外部研修や他施設見学を業務として位置づけ、質の向上を目的として検討されると、さらに良くなると思った。
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域包括支援センターがサービス事業所を対象とした研修会や施設見学を開催し、定期的な参加すると共に、意見交換を行っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	事前に施設見学をしてもらい、利用者・家族と話し合いを重ね、不安の解消に努めている。利用者に慣れてもらうこと、家族の心理的な葛藤を緩和できるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	忙しくなると、業務を優先しがちになるが、和やかな生活ができるように、喜怒哀楽を分かち合い、共に支え合えるような関係作りを考えてケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴、暮らし方、習慣、好きなこと、嫌いなことなどについて、利用者や家族から情報収集を行っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意見・意向、モニタリングやアセスメントを踏まえ、サービス担当者会議にて職員間で話し合いを行い、ケアプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリング、定期的計画見直しは3ヶ月毎としている。状態変化があったときは、再アセスメントを行い、随時で計画の見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の対応は、施設で行っている。近くのスーパーまで買い物に行くなど、外出支援をしている。家族が宿泊するときは、寝具の貸し出しを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に通院することができる。通院対応は施設が行っている。通院先の医療機関と情報交換を行い、連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、契約書および重要事項説明書に示されている退去に関する説明を行っている。終末期や重度化の対応について、指針や方針は定めておらず、状態が悪化した場合は、その都度、家族と相談して対応を検討している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書の中で秘密保持を規定している。個人情報使用の同意を得ている。プライバシーに関しては、スタッフ間で注意し合うこととしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、食堂や自室など思い思いの場所で生活している。時間に追われ、ゆとりがなくなると、日課や業務に沿った生活になりがちである。		一人ひとりの生活に着目し、その日にしたいこと、利用者のペースを守ること、利用者が主体的に暮らすことができるような対応が求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、委託業者が納品している。調理は職員で実施している。利用者は、テーブル拭き、下膳、食器拭きなどを行っている。		食事の時間は、職員も同じテーブルについて見守りや会話をしたり、音楽の工夫など、食事というひとときを楽しむことができるような雰囲気作りを検討されると、さらに良くなると思った。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週二回（火曜・金曜日）の入浴日の中で希望の時間に入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から、生活歴などできること、役割としてきたことの情報を確認し、テーブル拭き、下膳、食器拭き、花壇の草取りなどの作業活動をしてもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週、近所を散歩している。希望時は、近くのスーパーに買い物に行ったり、近郊の公園にドライブなど、外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていない、事故防止のためセンサーを設置している。夜間は、防犯上施錠している。最近はいないが、徘徊される利用者がいれば、一緒に散歩することになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>運営推進会議や町内の回覧板で、災害時の協力を地域に求めている。消防計画を策定し、連絡体制を詰め所に掲示しているが、防火訓練は一昨年から実施されていない。</p>		<p>重要事項説明書の中で、防火訓練は年二回（昼間と夜間を想定）とされており、訓練を繰り返し実施することが求められる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取状況を確認している。疾患により制限食が必要な場合も対応している。栄養のバランスなど、専門職のアドバイスを受けている。摂取しやすいように、小さめで、柔らかめの食事形態としている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>採光、騒音、温湿度、臭いなど、気になることはない。全体的に木目調で、落ち着いた家庭的な雰囲気を有している。季節に併せて飾り付けをするが、子供っぽくならず、季節感を感じることができるように配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇、写真、家具など、思い出の品々が持ち込まれ、落ち着ける居室になっている。住み慣れた家に近い環境で生活できるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。